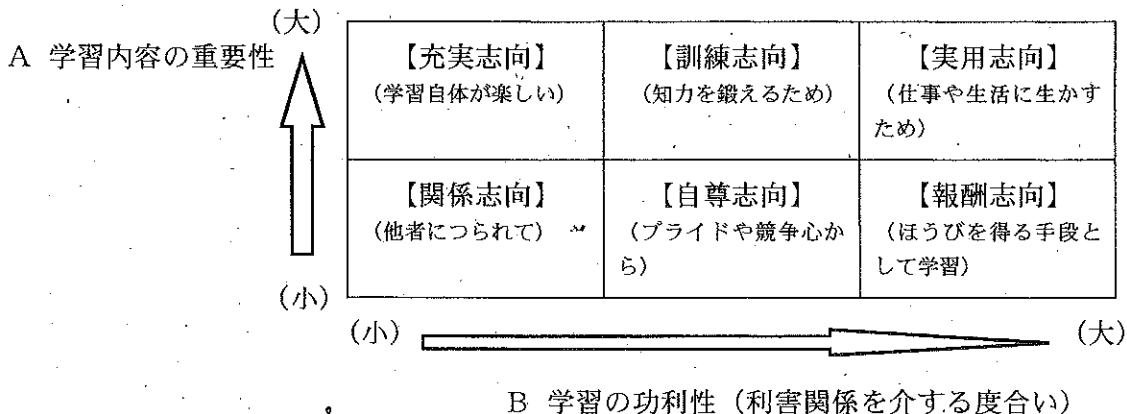




「ある程度強制されつつ、内発性を」 ～学習の動機づけ要因から～

市川伸一という教育心理学の学者は、学習動機の二要因モデルとして、次の表を挙げます。



理想的なのは、A (学習内容の重要性) の度合いが大きく、B (利害関係) を超えて成立する学習がよいのですが、現実的にはそうばかりはいきませんね。

例えば、プライドのために学習し大学合格をめざすという場合。大学や就職試験に合格したら、誰かから褒められる、報酬をもらえるといった俗な理由で頑張るといふ例もあるのでしょう。

ここで、理想を掲げれば、外発的動機づけ (端的には上の【報酬志向】) でなく、可能な限り、内発的動機づけ (端的には上の【充実志向】) を求めるべし、ということになるかもしれません。

ただ、市川氏や和田秀樹氏も述べるように、人にはある程度の外圧が必要で、加えて自分の色を出す、といったスタンスでよし、ととらえられています。

標記のように「ある程度強制されつつ、内発性を」生み出していく、という姿勢でよいのでは。

その意味でも、再々度、「学習力」とはいかなるものか考えつつ、その向上に努めていきたい。

「**学習力アップシート**」の【6月分】活用を大いに期待しています!! 健闘を祈る!

**小論文ワンポイントアドバイス** : 「生と死、『命をいただく』という視点」

無着成恭という教育学者が、次のような趣旨で述べています。

「あるテレビのグルメ番組で若いリポーターが、えびの躍り食いを見、『わあ、おいしそう。』と今にもほおばりたそうに、それも一縷の迷いもない満面の笑みを浮かべているのを私は見、違和感を覚えた。

弱肉強食の視点からも、人間が生きるためとはいえ、弱い生命体を食し、生命を維持しているということ。このことを勘案し、命 (いのち) をいただいているという有り難さや、命そのものの尊さに思いが及ぶべくもない。嘆かわしいこと。」といったものであったかと思う。



私は強く共感した。命をいただいていることに感謝し、生命に対して、畏敬の念を抱きつつ、やむを得ず、食物として食むということだ。決して私自身、動物愛護の立場をとっているわけでもなく、ベジタリアンとして動物を食していないわけではない。むしろよく食べるほうだ。

ただ、常住坐臥、常にこれらのことを意識するわけにはいかぬとも、意識として、確かに意識として持つべきだということであろう。意識が無い人を見ると違和感を抱くことになる。

その目でみると、人には「持つべき視点」というものがあるように思えます。